

のれんとは何か？ ～営業権の話～

平成 31 年 3 月作成



「のれん」というものをご存知でしょうか。最近あまり見かけなくなった気もしますが、お蕎麦屋さんやてんぷら屋さん、お寿司屋さん等、昔ながらの和食系の店舗のお店の入り口にかかっている布のことで。元々はお店の中へ直接風や寒気が吹き込むのを防ぐためだったり目隠しのためだったりの目的で使用されたようです。多くの場合、そこにお店の名前が書かれたりしていましたが、現在でも銭湯などでは男湯と女湯を区別するために色や男女の文字で区別したりして利用されています。暖簾が出ていることにより、お店が営業中であるというしるしとしても利用されています。

そして、この「のれん」という用語は会計の世界でも使われています。これは企業のブランド力を表すものとして利用され、具体的には「営業権」という「超過収益力」を表す無形資産を意味します。では、この暖簾はどのような場合に生じるかというと、M&A、つまり企業買収や合併に伴って現れます。物を買う場合には具体的にいくらもの価値があるものをいくらで買うという形になりますが、企業というまとまった複合資産（負債）を取引する場合、その評価額と購入価額にずれが生じる事があります。たとえばある企業をその企業の評価額である純資産額（総資産-負債）より①高く購入する場合と、②安く購入する場合について考えてみます。



①の場合には、この差額がプラスになります。この場合の差額を「のれん」と呼びます。

②の場合には、この差額がマイナスになります。この場合ののれんを「負ののれん」と呼びます。

①の場合にはその買収する企業の価値を、単純にその会社が持つ資産の価値より高く評価している場合です。(1) 買収企業と被買収企業が協力することにより、相乗効果が見込まれるような場合や、(2) その買収される会社が持つ店舗や流通ルートを利用することにより、自社で一から設備を整えるより安価に買収する会社の業績が向上することにより効率化が見込まれるような場合が考えられます。特にニュースで赤字会社を買収するという話を聞く場合がありますが、その場合は(2)のような効果を狙っていることが多いと考えられます。

では、②の場合はどうでしょうか。この場合、保有する資産価値よりも低い価額で売却するということは、売却する側が損をすることになり、一見経済合理性が認められないようですが、売却側にも意図があります。事業が衰退傾向にあり、このまま続ければ、事業を続けるだけ赤字が膨らみ、また、企業を解散するにしても、そのリストラ費用（退職金等を含めた従業員の解雇の補償や資産の処分にかかる費用）が高額になると見込まれる場合、それらの費用の負担なく、会社ごと売却できれば売り手にとって有利になることもあるのです。購入する側にとっては、損をする形になっても上記①の場合に見込まれるメリットがあれば、債務超過のような企業であっても買収することがあり得るのです。なぜ？と思うような M&A の裏に隠れている意図を自分なりに推測してみるのも面白いと思います。